

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870200694		
法人名	株式会社 ライフサポートジャパン		
事業所名	グループホーム ゆうとび庵神戸・石屋川		
所在地	兵庫県神戸市灘区記田町1丁目3-7		
自己評価作成日	平成25年6月21日	評価結果市町村受理日	平成25年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107		
訪問調査日	平成25年6月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が地域の一員として自然に暮らして頂けるように、運営推進会議や日常的な地域住民との交流、その他地域行事を通じて、グループホームとしての認識を深めて頂くことに努めています。日々の生活の中では、今年も家庭菜園に取り組み、野菜等の成長を楽しんで頂いたり、花壇に咲いた花の手入れをして頂いています。また、ホーム内の入居者様同士の交流の機会となればと、「ふれあい喫茶」と称して、各フロアの入居者様にひとつのフロアの談話室に集まって頂く機会を設け、カラオケ等のレクリエーションも合わせて実施して、皆さん楽しんで頂いています。安全面にも注意して、防火管理に努め、非常災害時の連絡、避難方法の周知徹底を怠らないようにしています。入居者様と職員との馴染みの関係も大切にするようにして、職員の向上心や、やりがいを持てるように各種資格取得には全面的な支援を行ない、永年勤続表彰も行っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民から理解と協力を得ることができ、日常的な挨拶と交流を継続し、地域に密着した施設である。近隣の喫茶店やスーパーの利用や近隣の住宅の住民の方と顔馴染みの関係が構築できている。認知症サポーターとして事業所で灘区に登録し、事業所の機能を活かして地域へ貢献するように取り組んでいる。利用者の体調や希望、気候に合わせて近隣の公園への散歩や買い物、馴染みの場所への外出、海辺の公園にドライブで出かけることなど、外出の機会をもっている。また各フロア間の利用者の交流を兼ねて月替わりで各フロア交代でふれあい喫茶と名付けて交流の機会をもち利用者の楽しみとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアで定期的を実施するフロアミーティングにおいて、グループホームの意義をふまえて運営理念に基づいた個別的なケアが一人一人の入居者様に対して実践できるように話し合い、協議した内容を全職員が共有できるよう議事録を作成しています。また、朝礼や申し送り時に入居者様の生活の場であるグループホームの意味を話し、日々の暮らしを振り返ることができるようにしています。	定期的を実施している各フロアミーティングでグループホームでの理念や方針に基づいて日々の支援・ケアの振り返りを行うようにし理念の理解と浸透を深めている。理念を踏まえてグループホームとしての役割・特色を活かして、個別ケアの徹底を図るようにしている。フロアミーティングの機会にはケアカンファレンスも行い、利用者一人ひとりについて支援方法・ケアの振り返りを行い理念の共有と実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民の方々とは日常的に挨拶を交わしており、ホームの運営に対してご理解、ご協力を頂いております。近隣にある介護施設とも交流させて頂きながら、協力関係が維持できるように努めています。その他、近所のスーパー、喫茶店等の店員さんとも顔馴染みの関係を築き、入居者様が利用しやすい環境になっています。	地域住民と日常的な挨拶と交流を継続しており、地域から理解と協力を得ることができるように取り組んでいる。近隣の喫茶店やスーパーの利用や近隣の住宅の住民の方との交流をもち顔馴染みの関係が構築できている。ふれあい喫茶や高齢者住宅で開催されるイベントへの参加なども行い、交流の機会をより多く持ち地域とのつながりを継続している。認知症サポーターとして事業所で灘区に登録し、事業所の機能を活かして地域へ貢献するように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の相談窓口となるよう神戸市の取り組みである「認知症サポーター」に事業所として登録しています。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員、自治会会長、民生委員、他のグループホームの管理者、地域の方、御家族の方等にメンバーになって頂き、2ヶ月毎に会議を実施しています。ホームの運営について報告をさせて頂き、皆さんから助言や、ご意見を頂いております。また、地域の行事の開催案内等の情報交換を行なうことにより、入居者様が行事により参加しやすいうように取り組んでいます。	奇数月に地域包括支援センター職員、自治会会長、民生委員、他のグループホーム管理者、利用者家族代表、利用者代表の方に出席してもらい開催している。会議では、運営方針の説明や防災対策・野菜の栽培など事業所としての取り組みや活動報告を行い、参加メンバーより意見や提案・助言を聴取し運営やサービスに反映させるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に関する内容を年度毎にまとめ書面で報告する等して、ホームの取り組みを伝えたり、神戸市が実施している研修には積極的に職員に参加してもらうようにして、そこで学んだ知識、経験を全職員で共有しながら日々のケアサービスに活かせるように取り組んでいます。	神戸市の決められた書式に沿って毎年運営推進会議開催状況報告書を提出し、事業所の状況について把握してもらっている。神戸市の集団指導や実践者研修開催には職員が出席し、得られた知識や経験を活かして事業所でのサービスや運営に反映させるように取り組んでいる。市町村の保健師の方の来訪での研修や情報提供を受け、サービスや運営に反映させている。課題や疑問が生じた時には積極的に相談し助言や指導を受けるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の定期的な内部研修の他、新聞等で報じられている事例を参考にしながらその都度研修を実施して、職員の理解を深めるようにしています。	法人全体で「高齢者虐待防止・身体拘束廃止」についての年間の研修計画を策定し研修を実施している。全職員が受講できるように研修実施期間を設け周知を図っている。神戸市のケアネットから出されている資料を基に研修の実施を行い、理解を深め身体拘束をしないケアの徹底を図っている。移動動作に車椅子を使用されている方には、車椅子に座り続けることが当たり前にならないように注意・配慮を行うように実践し、拘束をしないケアの実践を具体的に行っている。	研修で得られた知識を活かして、実際の現場のケアの振り返りを行い、事業所内で拘束につながる事例はないか、個別の閉塞・抑圧感のない暮らしの支援への取り組みが望ましい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の定期的な内部研修の他、新聞等で報じられている事例を参考にしながらその都度研修を実施して、職員の理解を深めるようにしています。特に虐待の定義を明確に理解するようにして、職員同士で気を付けることができる環境作りを目指しています。	法人全体で「高齢者虐待防止・身体拘束廃止」についての年間の研修計画を策定し研修実施をしている。身体拘束と共に虐待についても理解を深めるようにしている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている入居者様の事例を参考にしながら、その仕組みや意義について学ぶことができるようにし、個別のケアカンファレンス時にも議題としてとり上げ、御本人にとって役立つものであり続けることができるよう職員の理解を深めるようにしています。	現在利用中の制度利用の方を通して、職員は権利擁護について学び・理解を深めている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学等の為、ホームに見学に来られた際は、詳細な説明を行うようにしており、契約時の内容の説明については、十分に時間を取り、入居者様や御家族の質問に一つ一つ答えながら手続きをすすめるようにしています。	利用の意向があれば事前の見学等で契約内容について口頭で詳細に説明を行い、理解と納得を得やすいように配慮している。契約時にも契約書の内容に沿って時間をかけ説明を行っている。利用可能な状況や利用料金については特に注意して詳細に説明を行い理解と納得を得るようにしている。個人情報保護について説明する際には、「ゆうとぴ庵神戸・石屋川通信」など実際に見てもらい写真等の掲示や掲載についても理解と納得を得るようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年実施していた「家族会」について、今年度は各フロア毎に実施しました。フロア毎に少人数単位で実施することにより、より話しやすい雰囲気の中で話し合いができました。また、御家族が面会に来られた際は、御本人の様子を伝えさせて頂き、その都度ご意見を聞き取ることができるようにしています。	今年度から、家族会を各フロアごとの少人数単位で実施し、和やかな雰囲気家族からの意見や要望・提案を出してもらいやすよう取り組みを行っている。職員と家族との交流が深まるだけでなく、家族間の交流も深まる機会となり家族の出席も多くなっている。家族の面会時間や胃ろうへの対応など家族から質問もあり、事業所から説明を行っている。「ゆうとぴ庵神戸・石屋川通信」と個別のお便りで利用者の様子を知らせる取り組みは継続している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロア長が参加するマネージャーミーティングやフロアの職員で実施するフロアミーティングの他、食事委員会、レクリエーション委員会、コンプライアンス委員会を設けて、各職員が意見交換し、その内容が運営に反映できるようにしています。	各フロアミーティングが意見や要望・提案を出す機会となっている。個人面談では管理者が職員と個別に話をする機会を持ち、個人の意見や提案を聴取する機会ともなっている。会議はフロアミーティングの他、各種委員会でも意見や提案を受け検討・話し合いを通してサービスや運営に反映させるように取り組んでいる。食事委員会では、利用者の嗜好や好み等を把握し食材について意見を出し合い利用者が食事を美味しく食べることができるように検討している。	職員アンケート等を通して職員からの意見や提案を聴取するだけでなく、アンケート結果から職員間で課題になる項目を見つけサービスの質の向上につなげる取り組みが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な昇給や、各種手当を設け、向上心を持って働けるようにしています。また、勤続年数に応じて永年勤続表彰を行って、やりがいや充実感を感じながら、勤務できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に「神戸市認知症介護実践者研修」については、認知症ケアについて振り返り、新たな知識や経験を得ることができる機会として、毎年度積極的に職員に受講してもらうようにしています。内部研修では年間計画に基づいたテーマの他にも、新聞等でとり上げられる介護に関する記事を扱い、職員が社会事情にも関心、興味を持つことができるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周辺の介護施設、事業所へは定期的な訪問、挨拶を行い、協力関係を維持できるように努めており、職員が訪問、見学を行うこともあります。また、入居相談等があったときは、お互いに連携を取り、相談者の要望に少しでも応じることができるように努めています。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御入居前には、御本人との面談を経て、事前の聞き取りを繰り返し行うようにしています。特に在宅生活を続けてこられた方については、御自宅での生活の様子を定期的に確認させて頂き、ホームでの暮らしを始めるにあたって、混乱が少なくなるよう努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族関係も確認させて頂き、ホームでの生活を始めるにあたって、どのような協力が必要か等をしっかりと確認させて頂くようにしています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活の延長線上にホームでの生活があるように、御本人と周囲との関係を詳しく聞かせて頂き、継続できる関係を見極めて、それを維持していくように努めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の日常の「言葉」や「行動」を注意深く観察させて頂き、できることを見極め、ひとつでも多くその希望が叶うように努めています。その内容については、フロアミーティング等の場で必ず議題に挙げるようにして、御本人の生活が、画一的で一方の立場に置かれてしまわないように気を付けています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人と御家族の関係については、それぞれの想いをよく聞き取って、一方的に関係を断ち切ったり、無理な関係作りを要望したりしないよう注意しています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の馴染みの場所である「美容院」、「スーパー」、「公園」等については、外出できる機会を設けて、その場所へ行くことができるように支援しています。また、御本人の友人、知人の方々についても気軽に訪問して頂ける雰囲気作りに努め、御本人にこれまでの思い出を大切にしてくれるように努めています。	普段の会話や関わりの中で訴えられた馴染みの場所や行きつけの商店などを外出支援へつなげている。また、知人や友人の来訪があれば気持ち良く面会してもらえるように配慮し関係が途切れないようにしている。イベント時に来訪されるボランティアの方や訪問理美容の来訪など利用開始後にできた馴染みの関係も継続できるように努めている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様どうしの関係については、相性もあるので、職員が間に入りながら、その関係を維持できるようにし、共用のスペースである談話室での座席やレイアウトについても考慮しています。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御退居された後も、御本人の様子について確認させて頂き、御家族からご連絡を頂いた場合は、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスを実施する際に、最も注意している事は、御本人の希望、意向であり、一方的なケアにならないよう気を付けています。御本人の要望については、日々の暮らしの中から聞き取ることができるように寄り添ったケアを実践していき、その伝達が難しい入居者様については、フロアーの職員がこれまでの馴染みの関係を活かして読み取るようにしています。	日々関わる中で何気ない会話や利用者の表情や態度から、思いや意向を把握するように努めている。日々の関わりの中で把握できた思いや意向はケアカンファレンスで情報共有し、サービスや支援に活かせるように検討している。利用者が思いや意向を積極的に訴えられない方には、これまでの暮らしぶりや好み等の情報を関係者から聴取し、職員が日々の関わりの中で利用者の立場に立ち考えると共に、本人が意向や希望を簡単に伝えるように言葉かけ等を工夫し把握するようにしている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御入居前だけに限らず、御入居されたてからも御家族、関係者からの聞き取り続けて、その都度、これまでの生活環境や、御本人の趣味嗜好を聞き取るようし、その内容はカンファレンス時等で職員間で共有できるようにしています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日の様子については、経過記録として記録していき、その内容は各職員が必ず確認するようにしています。記録の記入の際は、御本人の心身状態、詳しい身体の様子等を具体的に記入していくように努めています。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、モニタリングを実施することにより、適切な介護計画に基づいて日々のケアが実践されるように努めています。より詳細な内容の見直しについては、ケアカンファレンスの中で職員同士で意見交換を行い、またそこで御家族のご意見、ご要望が反映されるようにしっかりと話し合っています。	毎月モニタリングを実施し利用者の些細な変化を見逃さず、現状に即した計画となるように取り組んでいる。3カ月に1回の定期的な見直しを行いケアカンファレンスで職員からの意見や気づきなどを受け、利用者・家族の意見や要望を反映させた計画を作成している。計画に沿って実施した内容や日々の様子は介護記録に記載している。介護記録には、利用者から出された言葉や表情・態度等はできる限り詳細に記載するように努めており、些細な変化や状況を見逃さないように取り組んでいる。	記録の管理責任者を明確にし、今後も介護記録には利用者の些細な変化を見逃さない為に記録内容の充実を図る取り組みの継続が望まれる。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録には、御本人の様子、ケアの実践と結果を記入するようし、職員の気付きの点は、申し送り等の際に職員同士で共有するようにして、その情報に基づいて、次のケアへの工夫や、改善につながるよう努めています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化していく入居者様の様子に合わせて、職員は柔軟に対応できるように努め、またその対応方法については、その都度御家族にも連絡、報告させて頂き、了解を得ながら、確認を行なっています。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や喫茶店、スーパー等の地域資源を活用して、御本人の要望に応じて、職員が付き添って安全に行き来できるように支援しています。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による定期的な往診を基本としながら、御本人、御家族が希望される場合は、その他の医療機関にも受診できるよう、通院介助も含めて支援しています。また、日々の生活の中で体調やお身体の変化があった場合は、主治医に報告、相談を行ない、更に御家族とも相談しながら、詳しく検査等を実施できるよう医療機関を受診して、病気等の早期発見、早期対応に努めています。	定期的にかかりつけ医の往診を受け健康管理が行われるようになっている。疾患や身体状況に問題・変化がある時には、いつでもかかりつけ医に相談し必要に応じて往診や受診を行い適切な医療を受けることができるように支援している。利用者、家族の希望による、かかりつけ医への通院にも対応している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とも情報交換を行い、入居者様が適切な処置を受けられることができるよう、早期に相談を行なっています。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には、こまめに御本人の状態を確認させて頂き、まずは早期退院を目指して、医療機関と情報交換を行ないながら経過を見ています。入院先の主治医からの説明がある時は、ホームの職員として御家族の了解を得て同席させて頂くようにして、退院後のフォローに役立てるように詳しく病状を聞き取るようにしています。また、病院のケースワーカーとも協力関係を築き、退院までの方針を御家族と共有できるようにしています。	体調の変化で入院が必要な場合にはかかりつけ医に相談し、入院につなげるようにしている他、緊急時には近隣の救急病院へ搬送するようにしている。入院した医療機関へ普段の状況など身体状況を含め情報提供を行い、早期に適切な医療・介護を受けることができるように支援している。入院中には利用者の状態の把握に努め早期に退院できるように支援している。退院が決まれば医療機関より情報提供を受けている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御入居前の説明の中で、重度化した場合や終末期のあり方について、ホームの方針を説明させて頂き、御家族の理解を得るようにしています。また月日の経過とともに変化していく御本人の様子をその都度御家族とも確認させて頂き、対応方法についても柔軟かつこまめに検討していくようにしています。	契約時より重度化・終末期に向けた事業所の方針については説明を行い、理解と納得を得るようにしている。利用者の状態の段階に応じて家族・医療との話し合いを繰り返し行い、利用者・家族の意向を踏まえて、他の施設や医療機関への移行ができるように支援に努めている。	重度化・終末期に向けた方針を踏まえて、緊急時・急変時の対応や重度化・終末期への段階に応じた支援を統一して行う為の研修を実施することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、職員が周知徹底できるように定期的に確認している。職員、御家族の緊急連絡先、救急車の要請方法等、具体的な確認を行なっています。また、ホーム内に設置しているAEDの使用方法的確認も行い、職員の「市民救命士」資格取得もすすめています。	/	
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含めた自衛消防訓練を年2回以上実施して、毎回通報訓練、避難訓練、消火訓練を実施して、非常災害時に備えています。火災に対しては、「防火管理チェック表」を活用して毎日防火チェックを行い、消火器の配置確認や、スプリンクラー設備の確認等も行って、細心の注意を払っている。地域住民にもその訓練の様子を見て頂くことによって、ホームの非常時に協力を得ることができるような体制作りに努めています。	昼夜を想定した年2回の訓練の実施を行っている。訓練は利用者の状況に応じて参加してもらい実施している。非常災害時に備えて非常持ち出し袋を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人への声掛けや対応については、ケアカンファレンス時に、御本人にとってどのような言葉が必要かをよく考えるようにしています。御本人のプライドを傷つけたり、プライバシーを損ねないように注意することの大切さを確認しながら、話し合いを行なっています。	カンファレンスやミーティング実施時には利用者への具体的な支援方法を通して、利用者への尊厳やプライバシーを損ねないような支援・ケア方法を話し合い利用者個別のプライバシー・尊厳を大切にしたい支援に努めている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、御本人が自己決定できるような声掛けを意識して行なうことにより、その判断を押し付けず、職員と一緒に考える時間を共有できるように心掛けています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールに詳細なプログラムを用いるのではなく、御本人のペースに合わせて、時間の流れの中で、職員がその動きをお手伝いするかたちで支援するようにしています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい衣類の選択をお手伝いし、御本人の趣味に合った衣類を着て頂けるように支援しています。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にはできる範囲で、食事の盛り付けや、配膳、また後片付けを手伝って頂いています。その際は、ご負担になり過ぎないように職員が見守り、声掛けを行っています。入居者様はそれを御自分の役割として、やりがいを持って行なって頂いており、食事を楽しむことへ繋がっていると思います。	利用者の希望や状況により一人ひとりできる範囲での役割を担ってもらえるような場面作りを行い支援している。嚥下や咀嚼の低下してきている方には、刻みやミキサー食の提供を行っている。食事委員会で食事会を企画しお好み焼きを一緒にしたり、おやつでおはぎ作りを行い食べる楽しみをなるべく取り組んでいる。食事チェック表で摂取量や水分摂取量を確認している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については、チェック表に基づいて毎食確認しています。水分摂取量も同様にチェックし、こまめな水分補給を心掛けています。また、個別の嗜好品も提供できるようにして、食事量や栄養を補えるように工夫しています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについてもチェック表を用いて、こまめなケアを行なえるよう注意しています。御本人の状態に合わせて、義歯の洗浄を行ったり、口腔ケア用のティッシュを用いてケアを行ったりしています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個別に排泄のパターンを把握できるようにしています。また一人一人の状態に合わせて、下着の選択や、おむつ類の使用を検討し、まずはトイレでの排泄を目指して取り組んでいます。	排泄チェック表で排泄パターンや状況を把握し、利用者一人ひとりに沿ってオムツやパットの使用を最小限に気持ち良く排泄ができるように排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者様へは、個別の予防方法を検討していき、スムーズな排泄が行なえるように支援しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂けるように、その時間やペースを入居者様に合わせるように努めています。個人のプライバシーにも配慮して、同姓介助を心掛け、職員との良いコミュニケーションの時間としても過ごして頂けるようにしています。	基本的にはプライバシーを尊重して、同性介助を行うようにしている。利用者の希望に応じて入浴してもらえるように特に曜日や時間を決めずに支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明確な就寝時間は設定せず、一人一人のペースに合わせて就寝して頂いています。また、お身体の状態に合わせて、負担がかかり過ぎないように、日中でも休息して頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の管理については、一人ずつ名前を明記して細心の注意を払って管理しています。また、お薬の一覧表を個別のファイルで管理し、用法や副作用をすぐに確認できるようにしています。服薬して頂く際は、投薬チェック表を用いて管理しています。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品に関しては、個別に把握し、一緒に買い物にも出掛けるようにして、楽しみを感じて頂けるように支援したり、日々の生活の中でも食事の準備や後片付け、洗濯物の整理、お掃除等、御本人ができることを役割として持って頂き、充実感を感じて頂けるように支援しています。今年度も花壇を活用して家庭菜園を行い、水撒き等の作業を職員と一緒に行って、その成長を楽しんで頂けるようにしています。お花が好きな入居者様には、花壇に咲いているお花を摘んで頂き、談話室等のスペースに飾って頂くようにしています。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や、入居者様の体調に注意して、近隣の公園等に散歩に出掛けることができるように支援しています。普段行けないような場所でも、車を利用する等して、時間を作って外出するようにしています。	利用者の体調や希望、気候に合わせて近隣の公園への散歩や買い物、馴染みの場所への外出ができるように支援している。海も近いこともあり利用者の希望で海辺の公園にドライブで出かけることも多くある。今までは地域のふれあい喫茶に出かける機会を持っていたが、遠方で出かけることが困難な方があり、また各フロア一間の利用者の交流を兼ねて月替わりで各フロア一交代でふれあい喫茶と名付けて交流の機会をもち利用者の楽しみとなっている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、御家族と事前に十分に話し合いを行なって、御本人が混乱されないように気を付けています。嗜好品の購入の際は、一緒に買い物に出掛けるようにして、御自分でお金を使うことができるように支援しています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、電話を掛けて頂いたり、ハガキや便箋を購入して、御家族や友人と手紙のやり取りができるように支援しています。ハガキや、手紙を書かれた方については、職員と一緒に掛けて、御自分でポストに投函して頂くようにしています。		

自己 評価	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースである談話室のテーブルやソファ、テレビの配置は各フロアで入居者様の状態に合わせてレイアウトを行い、使いやすさや過ごしやすさに配慮するようにしています。本棚には入居者様が読みやすいお花や景色の写真が多く載っている雑誌を置いて自由に読んでいただいたり、季節ごとに壁の飾り付けを行なって、季節感を感じて頂けるようにしています。	明るく、ゆったりとした空間のあるフロアの壁面には絵やカレンダーを飾り居心地の良い部屋作りが出来ている。テーブルには庭で咲いた季節の花を飾り、利用者がゆっくりと寛ぐことが出来るようにソファのコーナーや少数で過せるテーブルの設置など、安心して過せる場所になっている。部屋の一角にあるキッチンから職員が食事を作る様子が見られ、穏やかな家庭的な雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや、ソファの配置を工夫して穏やかに過ごして頂けるようなレイアウトを行っています。また、安全面にも配慮して、入居者様が動きやすいように工夫しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者様の趣味や、思い出の品を自由に置いて頂くようにし、その人らしい空間作りができるようにしています。ベッドや、家具類の配置についても、使いやすさや安全面にも配慮してレイアウトを個別に考えて行なっています。	温度調節、清掃が行き届いた居室は、人のぬくもりが感じられる家庭的で安心し穏やかに過せる居住空間である。室内は、家庭的な家具が設置されている。ご利用者の馴染みの品を飾り個性豊かな環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が混乱されることなく穏やかに過ごして頂けるよう、各箇所にさりげなく案内を表示したり、危険箇所がないよう常時チェックを行なっています。		